

あうんだより

デイサービスセンターあうん広報 / 令和5年11月

相談員 杉澤 琴美

雪の便りが聞こえるようになってきましたね。名寄にとっては長くてつらい冬。ひとつでも多くの楽しいことに出会えるよう、あうんは毎日アツい日々を過ごしてまいります!!

今年も来ました! あうんハロウィン



11月は毎年恒例のハロウィン月間。室内はかぼちゃの提灯やタペストリー、リース、シール等々でハロウィン一色に飾られていました。玄関には大きな黄色いかぼちゃが3つ。10月27日には、この観賞用かぼちゃをくりぬいて「ジャック・オー・ランタン」作りをしました。利用者さんにはワタと種を取り除いて中身をきれいにしていただきました。この工程に手を抜いてしまうと、中からカビが生えて長持ちしなくなってしまうのです。ランタン作り歴4年の職員が熟練の技で目や鼻をくりぬき、中にロウソクの火を灯します。炎の揺らめきで表情が浮かび上がってくるように感じるのが不思議なところ。利用者さんからも「キレイだねえ」とため息がもれました。さて、ハロウィン当日の30日は、ジャック・オー・ランタン模様の風船を使っての風船バレーに始まり、昼食は恒例のハロウィンかぼちゃカレー。桜大根を使った紫色のスープ、紫色のポテトサラダ、黒豆も添えて雰囲気盛り上げました。そしてメインイベントは・・・毎年必ず3時のお茶の時間に合わせて現れる、律儀なハロウィンかぼちゃマン!! 「トリック・オア・トリート、お菓子をくれなきヤイタズラするぞ!!」の呼び込みで現れると、利用者さんを恐怖(?)で包み込み、手作りかぼちゃマフィンを配っていきました。お茶のあとは写真撮影タイム。利用者さんも帽子とマントで仮装して、ノリノリで写真に納まってくれました。ハロウィンマン、毎回少しずつ顔が違ふのです。今年の出来は本人にとっては不完全燃焼だったようで…来年はさらに強力なハロウィンマンに会えることでしょうか☆



かぼちゃのお祭りの翌々日は…



あうん畑は場所に限りがあるのでかぼちゃを育てることは難しいですが、ありがたいことにこの時期はあちらこちらからおいしいかぼちゃをいただきます。ハロウィンの翌々日の11月2日、いただいた甘いかぼちゃを使ってかぼちゃ団子作りをしました。

かぼちゃを丸々1個分、蒸し器でほっこりやわらかくしたら利用者さんたちの出番。丁寧に潰してからお好みの量で片栗粉を混ぜて練ったら、ほどよい大きさに丸めていきます。家庭によって大きさが全然違うのが面白いところ。大きく厚ければもちり、薄ければさっくりとした食感。フライパンでおいしそうな焦げ目がついたら、みたらしあんをとろーりとかけていただきました。

「子どもの頃は毎日かぼちゃばかり食べていたから手が黄色くなっていたね」「みんな同じだから誰も気にしてなかったね」

思い出を語り合う方や、せっせっせと職員の皿に盛りつけてくれる方。みんなで輪になって食べるかぼちゃ団子は格別の味でした。



こぼれ話

戦時中、女学校で行っていたことは勉強ではなく援農。南小学校(現在の南広場)から徒歩で砺波の田んぼまで通い、草取りをして3時ころには学校に帰る生活。援農が続く日々の中でも鞆にはいつも教科書が入っており、引率の先生が昼の休憩のわずかな時間を使って勉強を教えたというのです。

あらゆる制約がある中でも子どもたちに学ばせたいと考える先生の思いは尊ばれます。

戦争を知らない世代の我々は、利用者さんのお話から戦時中の生活の過酷さを学びます。そしてこの話も普段戦時中のお話をしない方からふとこぼれたお話し。そんな一瞬でしか得られない学びであることの尊さ。

明日もまた、たくさんお話を聞かせてくださいね。